

Spring Seminar 2018 5th C Table 総評

ジャッジ：東洋 4 年 原

〈テーブルメンバーと順位〉

- 1 位 京墓（慶應 2 年）
- 2 位 多田（東女 2 年）
- 3 位 山上（東洋 3 年）
- 4 位 小高（上智 2 年）
- 5 位 浅田（慶應 2 年）

〈議論の流れ〉

➤ Narrowing

山上のナローイングから始まり、オピニオンプレゼンター（以下 OP）には山上のみが立候補したため、OP は山上に決まる。

➤ Problem area

京墓や多田を中心に Q がなされていったが、特筆すべき点はなかった。

➤ Harm area

京墓、多田、小高を中心に Q がなされていったが、上記同様特筆すべき点はなかった。

➤ Cause area

上記 2 エリア同様に特筆すべき点はなかった。

➤ NFC

NFC では多田、小高、京墓がワラントへの反論を提示する。

多田の反論は、「先生が失業を恐れて生徒との距離を遠ざけてしまうことにより、日

本国民への教育の質が低下してしまうからタッチすべきではない」というものであった。京墓と山上の Q、C により、多田のアイデアは「モラルの教育は生徒との距離感に比例するもの（ex.松岡修造のような熱血教師）であり、APA ではそれが失われてしまう。」ということが判明する。その後、京墓のコンパリで話そうという提案が受け入れられ、この話はコンパリで行われることとなる。

小高の反論は「現状、CP は生徒の悪行を阻止しているためタッチすべきではない。」というものであった。その後多田により、小高が危惧していることは「APA において、不良生徒により模範生徒が MS を抱えてしまう」ということが判明する。多田のコンパリで話そうという提案が受け入れられ、この話はコンパリで行われることとなる。

京墓のアイデアは「先生の総数が減ることにより、教育の質が下がるためタッチすべきではない。」というものであった。それに対し、山上が solution で話そうという提案を提示し、本人に話す意思があまりなかったためか、すんなりと受け入れられた。

➤ Solution

Solution では Workability で多田が反論を提示した。

多田の反論は「生徒が先生の CP を隠すことにより、CP の総数は減らない。」というものであった。Date を検証している最中で終了となった。

〈順位と選定理由〉

1 位 京墓（慶應 2 年）

全体を通して積極的に C を打ちテーブルメンバーの理解の促進していた点、停滞時に議論を進行しようと努めていたため 1 位としました。しっかりと反論もできていてよかったのですが、自分から話すモチベーションがないようにプレゼンしてしまったりと非常にもったいなかったです。今後は、相手の意見を汲み取った S とセオリーを使った S を使い分け、より効率的に議論を進めることに挑戦してみたい。アッセンでの活躍に期待しています。

2 位 多田（東女 2 年）

常に懐疑的な視点を持ち、積極的に議論に参加していたため 2 位としました。また、1 位とは僅差です。今後は、アーギュメントを構成する論点をいかに簡潔に話すかを心掛けてほしい。また、反論以外にも他者の議論にコンスタントに介入することにも挑戦してみてください。応援しています。

3 位 山上（東洋 3 年）

OP として議論の土台を構築していたことを評価し 3 位としました。しかしながら、自身の考えを伝達する際、他者の介入に頼ってしまっていたことなど非常にもったいなかったです。初めての OP だったとは思いますが、普段の練習などを振り返れば、自分で議論を構築、展開する OP になれるはずです。アッセンでの成長に期待しています。

4 位 小高（上智 2 年）

Q やアーギュメントを中心に介入していました。しかしながら、介入量や浸透率が不十分であったため 4 位としました。まずは、自分の考えを正確に相手に伝えるためにチャートを書くことを心掛けてほしい。これからの成長に期待しています。

5 位 浅田（慶應 2 年）

介入が非常に限定的であった。慶應の偉大な先輩方を目標に、是非プレパに励んでほしい。